

第6学年 国語科学習指導案

日時 平成16年度10月15日(金)5校時

児童 男11名 女14名 計25名

指導者 佐藤美果子

1 単元名 二 言葉と文化について考えよう

教材名 「外来語と日本文化」

「現代を生きる五音、七音」「『言葉と文化』展示館へ、ようこそ」

2 単元について

(1) 教材について

本教材は、6年生になって2番目に学習する説明文教材である。6年生では、要旨を理解する力に加えて、目的や文種に応じて正確に文章を読み取る力、そして、自分の考えを持ちながら読むことまでねらうことになる。

本単元は、まず、要旨をとらえ、その上で「文化」という抽象的なテーマについて考える単元であると考えられる。今、自分が何気なく使っている言葉、自分を取り巻く言葉が、長い歴史を経た、多くの国々・人々との文物の交流の産物であるという認識を持たせる。

そのような新しい見方で身の回りの言葉を見直すとき、子どもたちは、ものの見方・考え方の幅を広げるにちがいない。言葉は、いつも人とともにあること、人間が生きてきたことの積み重ねが今の自分を支えていることなど、これまでの国語学習全体を改めて見直すことにもなる。

子どもたちが、自分の使っている言葉について、文化の継承者として在るための認識を深め、文化について初めて学んだことをもとに自分たちで調べて確かめ、さらに発表し合うという総合的な活動にも発展させることができる教材である。

(2) 児童について

6年生25名は、昨年度のCR 検査では、読み取りの力が全国比より低く、漢字の定着率も低い児童が多かった。また自分の考えを、意見として述べるとなると臆病になってしまう傾向も見られた。

前回までの説明的教材の学習で、問いの文、答えの文は、どこにあるか、要点や要旨のとらえ方などを学習することを通して、少しずつ全体的な構造から読み取れる児童も見られるようになってきた。

しかし、考えの筋道を説明できず聞き役に回ってしまう児童もいる。そこで、考える体験を積み重ねることで、自分の言葉で話させたい。また、自分たちで調べて確かめ、発表し合うところまで自分の考えを堂々と発表できる児童に育てていきたい。そして、考える力をつけることで、児童の心の成長に結びつけていきたい。

(3) 指導について

6年上巻第2単元「筆者の考えと事実を読み取ろう・火星に生命をさぐる」から筆者の考え(要旨)をとらえる学習をしてきた。その際に筆者は、適切な事例を用意して要旨をわかりやすく述べていることも学んできた。

本単元では、その上に立って、筆者は、文章の構成や表現に関しても読者を意識して工夫を加えていることに気づかせたい。また、筆者の考えを読みとった上で、自分の意見を

まとめる学習もしていく。その上で簡単な要約の仕方について、つかませたい。

また「言葉」や「文化」という抽象度の高い言葉を歴史的背景を含むものとして扱うことは初めてである。後半の『言葉と文化』展示館へようこそ」の学習では、知識を受け取り、確かめるだけでなく主体的に自分の考えをもち、読み進められるよう、自分の選んだ外来語について予想をたててから、文化とのかかわりを考えさせていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 目標

- ・言葉と文化について関心を持ち、文章を読んで要旨をとらえ、自分の課題をもつことができる。 (読イ)

(2) 評価規準

- ・「外来語と日本文化」の内容を的確に押さえながら要約し、言葉と文化について自分の課題をもって調べている。 (読イ)
- ・言葉と文化のかかわりについて自分の考えを持ちながら関心を持って読んでいる。(関)
- ・各自調査した内容を効果的に表現するために分かりやすくまとめ、発表の方法を工夫している。 (書ア)
- ・初めて知ったことや思ったこと、さらに調べたことをみんなに分かりやすくまとめ、発表している。 (話・聞ア)
- ・語句の由来や日本の伝統的な言葉のリズムに関心をもつ。 (言(1)ウ(エ))

4 単元指導計画(12時間)

次	時	主な学習活動	指導目標
1	1	・題名や内容に興味をもち、単元の見通しを立てる。	・生活の中の外来語の多さに気づき、「外来語と日本文化」の読み取り計画を立てることができる。 ・教材文から外来語についての意味を理解することができる。
2	2	・「外来語と日本文化」を通読し、問いの文について話し合う。	・問いの文を「どうして、『カード・カルテ・カルタ』は、日本語に入ったら別の言葉になったのか」のように自分でまとめることができる。
	3	・答えの文について話し合う。	・「カード・カルテ・カルタの意味のちがいは、これらの言葉をもたらした国々との交わりのちがいが反映している。」とまとめることができる。
	4	・具体例の要点をとらえる。	・カルタとカード・カルテが日本に入ってきたときの文化と習慣について具体的にとらえることができる。
	5	・筆者の考えをつかむ。	・9段落と10段落から要旨「外来語は、新しい文化とともに日本に入ってきたが、その入り方のちがいによって意味が

			ちがう。」ことをとらえることができる。
本時	6	・外来語全般と日本文化の関連について要約し、まとめる。	・カード・カルテ・カルタを外来語全般に置き換え、文化との関連について要約することができる。
3	7	・「現代を生きる五音・七音」を読み、リズムを楽しむ。	・教材文を通読し、五音、七音を繰り返し読み、気に入った作品を一つ暗唱することができる。
	8	・例文を暗唱し合い、リズム感のよさにふれる。	・短歌で間をとるとき、意味の区切りや形式を考えて読むことができる。
4	9	・「言葉と文化展示館へようこそ」を読んで、活動の方向を理解する。	・「外来語」について、調べる課題をもつことができる。
	10	・発表にむけて活動する。	・本やインターネットなど幅広く活用しながら調べることができる。
	11	・グループごとに発表準備をし、助言し合う。	・工夫した点や今後の修正点について明確に自分の考えをもつことができる。
	12	・展示会を開催する。	・展示館を開き感想の交流をするとともに互いの良さについて気づくことができる

5 本時の指導（本時6 / 12）

（1）本時の目標

カード・カルテ・カルタという言葉を外来語全般に置き換え、文化との関連について要約することができる。

（2）本時の評価規準

カード・カルテ・カルタという言葉を外来語全般に置き換え、文化との関連について要約している。

（3）研究主題との関連

説明文を正しく読み取るための指導法（ウ）「事実の部分と感想や意見の部分を読み分け、筆者の考えを読み取る」との関連で指導する。9段落と10段落から言葉と文化についての筆者がいちばん言いたいこととして押さえていたものを確認する。問いの文の中の「国と国との交わりの違いが、反映している」という言葉を答えの文の「文化の交流の現れ」という言葉に関連させ、筆者がいちばん言いたい文をもとにして要約する。

（4）展開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 と 評 価
つかむ 2分	1 課題を確認する 「外来語と日本文化」を要約してまとめよう	・課題は、学習計画に従い、簡単に確認する。
見通す	2 筆者がいちばん言いたいことを確かめる。	・「外来語は、その国との文化の交流の現れである。」ことを筆者がいちばん言いたいこととして確かめる。
5	3 問いの文、答えの文から大事な	・問いの文「意味」「カード・カルテ・カ

分	言葉をおさえる。	ルタ」「ちがう言葉」を押さえさせる。
学 び 合 う	4 本時の学習範囲を音読する。	・言いたいことの文・問いの文・答えの文と9・10段落を音読する。
33 分	5 問いの文の言葉と答えの文の言葉を対応させる。	・問いの文の言葉を答えの文で言い換えられていることを確かめる。 「カード・カルタ・カルテ」「外来語」「交わり」「交流」「反映」「現れ」
	6 自分の力で要約し、ノートにまとめる。	・達成状況によって、主語を指定したり、述語を補って支援する等の取り立て指導を行う。
	7 お互いにまとめたことをもとに話し合う。	
	8 要約した文章を推敲する。 要約は板書し、まとめたものを全体で確かめる。	・要約を3文をめどとして考えさせ、ノートに書かせる。 ・板書させ、確かめる。 【評】要約することができたか。
	まとめの要約 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>外来語の意味がせまくなり、ちがう言葉になったのは、いつ、どのように日本語に入ってきたかということと深い関係がある。それは言葉をもたらした国々と日本との交わりのちがいでもある。つまり外来語は、文化の交流の現れである。</p> </div>	・児童がまとめたもののほうが、分かりやすいまとめであればそのまとめを皆で読んで確認する。
ま と め る 5	9 本時の学習内容を振り返り、ノートに自己評価する。 10 次時予告	・学習課題や目標が達成できたか簡単に自己評価させる。

(5) 具体の評価規準

- A 外来語と文化との関連について、分かりやすく要約している。 (読イ)
- B 「つまり」の接続語を入れて、主述のねじれがなく外来語と文化との関連について要約している。 (読イ)
- 【C 児への支援】 要約するときに困難な児童が見られたときには、主語を指定したり述語を補ったりして要約を考えるよう支援する。 (読イ)

(6) 板書計画

<p>課題 外来語と日本文化」の要約をして まとめよう</p>	<p>筆者がいたいこと 外来語は、文化の交流の現れで ある。</p>	<p>言葉の置き換え カード・カルタ・カルテ 交換 交流 反映 現れ</p>	<p>(児童のまとめた要約板書)</p>	<p>まとめ 外来語の意味がせまくなり、ちが う言葉になったのは、いつ、どのよ うに日本語に入ってきたかと深い関 係がある。それは、言葉をもたらした 国々と日本との交わりのちがいで もある。つまり、外来語は、文化の 交流の現れである。</p>
-----------------------------------------	--------------------------------------------	------------------------------------------------------------	----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------